

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に係る 地球規模の結末に向けた インターアカデミー・パートナーシップ (IAP) からの要請

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、極めて深刻な地球全体への挑戦であり、個人、家族、コミュニティ、健康・医療サービス、そして経済へ影響を及ぼしている。非常事態であり、エビデンスを集め、検証し、そして、それらを利用するためになすべきことは山積している。それは、現時点における準備と対応の改善、そして将来に向けた我々のガバナンス・システムの改善の両方においてである。既に科学研究は、ウイルスの特定、その疫学の理解、その臨床過程の特徴付け、そして、まだ時間を要するものの、診断法、治療法、ワクチンといった新たな治療介入の開発を促進するための情報提供などにおいて、多くの成果を挙げている。我々の集合的利益、すなわち、地球規模の公共財のために、我々は、研究とその成果をどのようにしてより良く、そしてより早く利用していくべきであろう？¹ IAP によるこの地球規模の要請は、共同して行動することが、今、極めて重要であることを強調している。すなわち、地球規模の努力が、全ての地域においてコロナウイルス拡大を抑制するために不可欠である。

現在の地球規模における新型コロナウイルス感染症の惨事は、科学コミュニティ内外にまたがるオープンな意思疎通、共有されたリソース、調整された行動を含む国際協調が重要であることを強く示している。我々は、過去の重大な伝染病の突発、例えば、HIV²、SARS³、エボラ、そして鳥インフルエンザ⁴への取り組みにおいて、科学等における国際協調の価値を見てきた。薬剤耐性結核⁵、抗菌剤耐性⁶のような主な伝染病への脅威に取り組むための持続的な戦略もまた世界的な共同と協調行動に依存してきたし、現在においても依存している。我々は、今、最善のデータに基づいた政策やプログラムを可能にし、協調するための努力を再確認するため、この新型コロナウイルス感染症の世界的流行が広がるにつれて得られる経験から学ぶだけでなく、他の脅威への対応において、何がうまく行き、何がうまくいかなかったかの教訓を活かしていかなければならない⁷。

事実は重要であり、そしてリーダーシップは重要である！利用出来る最善の医療そして科学の情報に支えられた強力なリーダーシップは不可欠である。我々は、新型コロナウイルス感染症に対処するにあたって、情報とリソースの共有における調整された国内対応と国際的結束が必要であるが、ウイルスの発生源に関する国家間の敵対、陰謀説、あるいは少数グループへの非難などによって影響されてはならない。知識の創出における断裂、地球規模であるべき対新型コロナウイルス感染症戦略の分断を避けることは極めて重要である。もし個々の政府が WHO の助言とは異なる公衆衛生活動実施を表明するならば、その根拠となっている助言を明らかにした上で、それらを具体化していくべきである⁸。

国際協調の不足は、医療システムが充分でない国々を含む最も脆弱な国々にとって、特に悪影響がある。いくつかの低中所得の国々は、まだ、多くの新型コロナウイルス感染症の事例を報告していないが⁹、この状況は変わり、これらの国々、近隣諸国、そして我々の全てにとって重大な結果がもたらされるであろう。WHO は、専門知識を結集し、そして新型コロナウイルス感染症に関する世界の研究とイノベーションについての情報を共有していく戦略をもっているが¹⁰、このような情報が新型コロナウイルス感染症の拡大と影響の急速な発展に遅れをとらないように、そして協調するための努力が全ての関連行動を網羅し、全ての関連科学と関わり、そして全ての関連結果を共有することを確実にするためには、すべきことが多くある。WHO は、これから現れる診断方法、治療方法、そしてワクチンへの公平なアクセスを義務づけ確実にするためにより強力な役割を果たしていかなければいけない。科学コミュニティは、これらの目的を達成するため、WHO と協力していくことが可能である。IAP とそのメンバーアカデミーは、世界の公衆衛生の確保を支援するため、各国がオープンで責任ある形で WHO と意思疎通を行なえるよう支援することの重要性を認識している。

新型コロナウイルス感染症の多くが不透明ではあるが、継続した行動のために最低限必要なものを構築する一方で、この不透明さを減らすために IAP は以下のことを促す：

1. **全ての国々が政府全体そして社会全体による取り組みを基盤とした協調へのコミットを新たにすること。** 公衆衛生の指導者と政府は感染症の突発と戦うために協力して働き、地球規模の計画がなければならない。IAP は、科学機関と他の機関との間の新型コロナウイルス感染症に係る研究とイノベーションに向けた新たなパートナーシップの努力を要請する。世界は、以下に述べる項目に関し、専門的知識とリソースを共有しなければならない：新型コロナウイルス感染症の生物学的、臨床面、そして社会面への脅威についての理解を高めるために；知識におけるギャップを特定し、そしてそのギャップをなくすために；新たな診断手段を開発するために；新たなあるいは他目的のための治療方法を特定し開発するため；ワクチンのイノベーションと提供における進歩を加速させ、介入の効果を観察し評価するために。製造、規制あるいはサプライチェーン活動を早めるための方法を見定めることは、新たな医療介入だけでなく、個人用保護具や他の標準的公衆衛生の手続きの提供にも当てはまる。そして、新型コロナウイルス感染症がもたらしうるものや、他の医療提供、そして農業のような健康に不可欠な他のセクターにおいて行われた選択を評価し管理することは極めて重要である¹¹。目的の緊急性は、絶え間ない集中と全ての科学分野にまたがる、そして公共セクターと民間セクターの間の共同への今までにないコミットメントを必要とする。今は、狭い商業的あるいは国の競争力、そして他を犠牲にした自己利益を促進するような余地はない。病原体にとって、領土、あるいはイデオロギーの境界などは存在しないのである。

2. 政府間組織など¹²による世界中の検証済みの情報に係る意思疎通の調整は、最善の科学的エビデンスに裏打ちされた公衆衛生の備えを強化するために不可欠である。研究成果は、健康や社会経済への影響のモデル化の信頼性と妥当性を高めるために、さらには、例えば供給網に対する意図しない結果を回避するために用いられなければならない。科学に基づいた確かな助言は、それらが無い場合には、市民の結束と平等を妨げ、不安定にしてしまう証明できぬ主張、偏見、そして故意の誤った情報に立ち向かうために不可欠である。科学コミュニティは、信頼出来るエビデンスの責任ある、透明性のある、そしてタイムリーな意思疎通を促進するために他のコミュニティとの結束を図るべきである¹³。加えて、研究によって取り組まれるべき重要な社会と行動に関する問いかけがある：例えば、どのように不安、噂、そして差別に取り組むか；公衆衛生対策を遵守する上でどのようにコミュニティと関わるか；そして、意思疎通に関してどのようにメディアと協働していくかである¹⁴。先のことを考えるならば、経済が回復した時に備えて、社会は経済の脱炭素化への選択を探求していくための準備をしなければならない。

3. IAP は、公衆衛生の枠組みと保健・医療制度が脆弱な国々、特にコロナウイルス感染がすぐに増えていくだろうと予測されるアフリカと東南アジアの国々への支援と連携に対する格別の努力を提唱する。IAP は、途上国の科学者が、自国の政策決定者や市民に助言し、新たな医療介入を展開していく世界規模の努力に貢献していくことが可能となるよう、国際的な科学的エビデンスを利用できるよう、グローバル・ヤング・アカデミー (the Global Young Academy) や各国のヤング・アカデミーと共に、科学、工学、医学の分野における 140 以上のアカデミーの地球規模のネットワークを通して行動していくことを誓約する。全ての分野に及ぶこの地球規模の科学リソースの力は、地域間活動から学んだグッド・プラクティスや能力開発の共有を促進するための IAP の実践的指導によって強められている。IAP は、最善の利用可能な科学情報が最善の効果のために利用されることを確実にするため、WHO や他の地球規模あるいは地域の機関と共に働く用意がある。このことは、ウイルスの制御における科学と技術のフロンティア、例えば人工知能やロボット工学における進歩を活用していくことを含んでいる。IAP が、現在、他の科学あるいは医学コミュニティと共に進めている一つのイニシアティブは、IAP メンバーからの寄与による厳選された有効な情報資源のウェブ・ベースでの提供である。

今は最善の科学的エビデンスに基づいた調和された努力による地球規模の結束が求められている非常事態であることを再言して、結語としたい。IAP は、専門知識とグッド・プラクティスの共有を増進し、行動を喚起・促進するために出来る全てを行っていく。

2020年3月、インターアカデミー・パートナーシップ (IAP) の執行委員によって署名された。

IAP 会長	Volker ter Meulen
IAP 会長、IAP-Health 共同議長	Depei Liu
IAP-Health 共同議長	Margaret Hamburg
IAP-Science 共同議長	Krishan Lal
IAP-Science 共同議長	Cherry Murray
IAP-Policy 共同議長	Richard Catlow
IAP-Policy 共同議長	Masresha Fetene

注釈

1. Pontifical Academy of Sciences “Responding to the pandemic, lessons for future actions and changing priorities”
<http://www.pas.va/content/accademia/en/events/2020/coronavirus.html>.
2. WHO “Global health sector strategy on HIV 2016–2021. Towards ending AIDS”, 2016
3. For example, Mackenzie et al. “The WHO response to SARS and preparations for the future” in Institute of Medicine “Learning from SARS: preparing for the next disease outbreak: workshop summary”, 2004.
4. For example, Fidler “Global outbreak of avian influenza A (H5N1) and international law” American Society of International Law, 2004; Shu et al. “A ten-year China-US laboratory collaboration: improving response to influenza threats in China and the world, 2004–2014” BMC Public Health 2019 19 (Suppl 3), 520.
5. For example, Global drug-resistant TB initiative, www.stoptb.org/Wg/Mdrtb/default.asp; Balfour “Global collaboration formed to develop novel treatment regimens for TB” European Pharmaceutical Review 28 February 2020.
6. For example, WHO “Global action plan on antimicrobial resistance” www.who.int/antimicrobial-resistance/global-action-plan/en; CDC “Combat antimicrobial resistance globally” www.cdc.gov/drugresistance/intl-activities.html; Goff et al. “A global call from five countries to collaborate in antibiotic stewardship: united we succeed, divided we might fail” Lancet Infectious Diseases 2017 17, PE56–E63;
7. WHO Global Preparedness Monitoring Board, www.who.int/gpmb; Academy of Medical Sciences UK, Medical Research Council and IAP “Interdisciplinary research in epidemic preparedness. Workshop report”, 2019.
8. Editorial “Coronavirus: three things all governments and their science advisors must do

now” Nature 2020, 579, 319–320.

9. WHO dashboard,

<https://experience.arcgis.com/experience/685d0ace521648f8a5beeeee1b9125cd>.

10. See in particular (i) “Report of the WHO–China joint mission on coronavirus disease 2019 (COVID–19), 16–24 February 2020 and (ii)

www.who.int/blueprint/priority-diseases/key-action/novel-coronavirus/en.

11. “CGIAR’s response to COVID–19”,

www.cgiar.org/news-events/all-news/our-response-to-covid-19.

12. For example, World Health Summit COVID–19 Platform,

www.worldhealthsummit.org/covid-19.html.

13. Calisher et al. “Statement in support of the scientists, public health professionals and medical professionals of China combatting COVID–19” Lancet 2020 395, e42.

14. Ghebreyesus and Swaminathan “Scientists are sprinting to outpace the novel coronavirus” Lancet 2020 395, 762–764.

インターアカデミー・パートナーシップ (IAP) について

インターアカデミー・パートナーシップ (IAP) の下では、140 以上の国・地域・地球規模のメンバーアカデミーが、世界で最も難関な問題に対する証拠に基づいた解決策を探すことにおける、科学の重要な役割を支援するため連携している。特に、IAP は、健全な政策を進め、公衆衛生を改善し、科学教育における長所を推進し、他の重要な開発目標を達成するため、世界の科学、工学、医学の分野の指導者たちの専門知識を利用する。